

令和7年度「高校生等防災教育基礎講座」実施状況

1 実施概要

令和7年度は、県立高等学校8校、私立高等学校3校、特別支援学校1校の計12校で、実施しました。

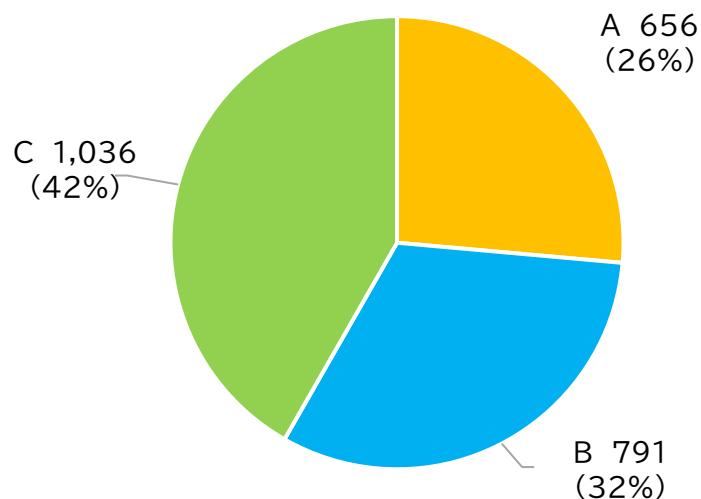
内容は、防災に関する講演（講師派遣）を基本とし、加えて模擬体験を実施しました。

No.	実施日	実施校	演題・講師
1	9月18日(木)	中央国際高等学校 (全学年)	「津波・地震への心構えと事前のそなえ」 減災・福祉パートナーズ 蓮本 浩介 氏 ※煙体験を実施
2	10月2日(木)	東海大学付属市原望洋高等学校 (全学年)	「災害への備えと心構え～お互いさまで支え合うために～」 減災・福祉パートナーズ 蓮本 浩介 氏
3	10月24日(金)	県立成田北高等学校 (1年生)	「後悔しない防災～リスクマネジメントと危機管理～」 千葉科学大学 藤本 一雄 氏 ※起震車・煙体験を実施
4	10月27日(月)	県立野田中央高等学校 (1年生・3年生)	「大地震が起きた時どのように行動すべきか」 災害対策コーディネーター 松清 智洋 氏 ※起震車・煙体験を実施
5	10月30日(木)	県立長狭高等学校 (1年生)	「避難所での生活と高校生ができること」 株式会社 kipuka 代表取締役 早川 大 氏 ※煙体験を実施
6	11月6日(木)	県立銚子高等学校 (2年生)	「わたしの防災、まちの防災～事前防災と避難行動～」 減災・福祉パートナーズ 蓮本 浩介 氏 ※起震車・煙体験を実施
7	11月13日(木)	県立小見川高等学校 (2年生)	「わたしの防災～災害への備えと心構え～」 減災・福祉パートナーズ 蓮本 浩介 氏 ※起震車・煙体験を実施
8	12月12日(金)	千葉学芸高等学校 (全学年)	「後悔しない防災～リスクマネジメントと危機管理～」 千葉科学大学 藤本 一雄 氏 ※煙体験を実施
9	12月16日(火)	県立木更津東高等学校 (全学年)	「災害への備えと心構え～わたしを守る基礎知識～」 減災・福祉パートナーズ 蓮本 浩介 氏 ※煙体験を実施
10	12月16日(火)	県立安房特別支援学校 館山聾分校（高等部）	「地震・津波へのそなえ～わたしを守る基礎知識～」 減災・福祉パートナーズ 蓮本 浩介 氏 ※起震車体験を実施
11	12月17日(水)	県立銚子商業高等学校 海洋校舎 (2年生・3年生)	「地震・津波に負けない学校と地域をつくる」 千葉科学大学 藤本 一雄 氏
12	1月7日(水)	県立松戸国際高等学校 (全校生徒)	「災害への備えと心構え～過去から学び、想像する～」 減災・福祉パートナーズ 蓮本 浩介 氏

2 アンケート結果

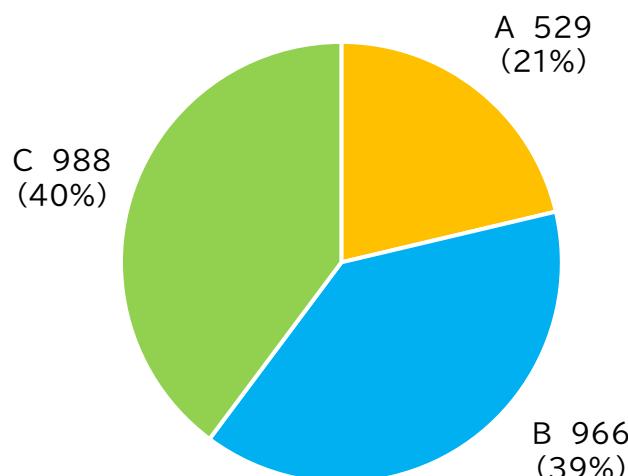
「高校生等防災教育基礎講座」の参加者に対して、日常からの防災対策及び 東日本大震災後の災害に対する意識を問うアンケートを実施しました。

1. あなたの家庭では、寝ている時に地震が起った場合、体の上にものが倒れてきたり落ちてきたりする危険はありますか？



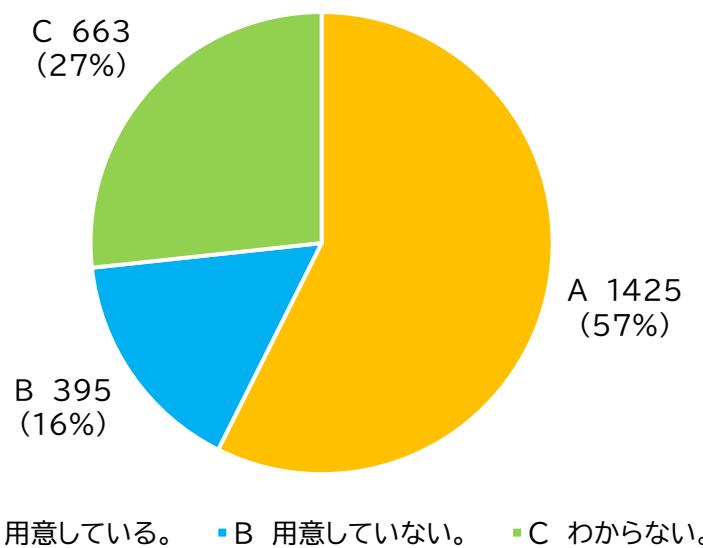
- A 家具などは固定しており、安全である。
- B 家具などは固定しておらず、危険がある。
- C ものが倒れたり落ちたりしても安全な場所に寝ている。

2. 東日本大震災の起きた当日は、各交通機関が止まり、遠くから通学している人は帰宅困難になりました。また、電話も通話が集中し、つながりにくくなりました。家族と離れている時に災害が起きた場合、集合場所や連絡方法を決めていますか？

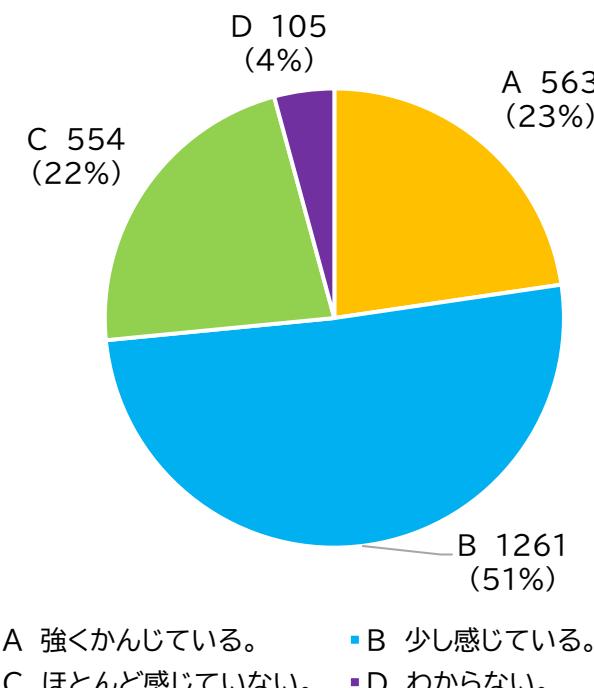


- A 集合場所も連絡方法も、どちらも決めている。
- B 集合場所も連絡方法も、どちらも特に決めていない。
- C 集合場所か連絡方法の、どちらかだけを決めている。

3. 東日本大震災のように、大災害時にあなたの家族が被災するのと同様に、自治体なども被災し、すぐには公的機関からの救援が望めない場合があります。
あなたの家庭では、災害に備えて水や食料などの非常品を用意していますか？



4. 近年、大地震や記録的な大雨・台風による被害が多発しています。あなたは、自分の住んでいる地域で、大地震や風水害が起こるのではないかという不安を感じていますか？



5. 本日の講座についての感想を書いてください。(主な回答)

- ・災害の恐ろしさを改めて感じた。自分の今の防災意識では足りないと思い、防災対策をしっかりとしていくたい。
- ・実際に地震や火災を体験したことがなかったので、再度考え直すきっかけになった。
- ・地震や津波の映像やシミュレーション動画を見て、災害の恐ろしさや備えの大切さを改めて実感した。
- ・家具の固定や非常食の準備など、家族と災害に備えて話し合うことの重要性を感じた。
- ・地震体験や煙体験を通して、実際に災害が起こった時の怖さや対応の難しさを実感した。
- ・「できる対策」ではなく「するべき対策」を意識し、家族や周囲の人と事前に話し合うことが大事だと学んだ。
- ・煙体験で火事の煙がいかに危険か、前が見えなくなる恐怖を実感した。
- ・避難所で高校生にもできることが多いと知り、ボランティア的な行動の大切さに気付いた。
- ・起震車や煙ハウス体験で地震や火災がどれだけ危険かを実感し、家の家具の固定の必要性を感じた。
- ・災害は自分事として捉え、普段から想定外を想定して備えることが大事だと思った。
- ・地震体験や煙体験を通して、実際に起きた時のパニックや危険性を強く感じた。
- ・家具の固定や防災バッグの用意など、事前の備えの重要性を改めて理解した。
- ・地震体験で揺れの強さを実感し、家具の固定や備蓄の重要性を強く感じた。
- ・ハザードマップの確認や、家族と連絡手段・集合場所を話し合うことの大切さを学んだ。
- ・地震や津波の実際の映像を見て、災害の怖さを実感し、家の中の危険な場所や家具の固定を見直そうと感じた。
- ・災害を他人事ではなく自分事として考え、家族と話し合うことや日頃の備えが重要だと気付いた。
- ・耐震性の住宅や防災対策の大切さを知り、普段から備えておくことが重要だと感じた。
- ・災害時は自分だけが安全と思わず、周囲を見ながら避難することの大切さを学んだ。
- ・災害の映像を見て危機感を持ち、家具の固定や避難場所の確認など事前対策の大切さを学んだ。
- ・家族と防災について話し合い、災害を自分事として捉える意識の重要性を感じた。